

平成28年度 第1回瀬戸市環境衛生審議会議事録		
日時	平成29年2月10日(金) 午後2時から午後4時まで	
場所	やすらぎ会館2階 201会議室	
出席者	委員	出席者：小林会長、後藤副会長、伊藤委員、服部委員、 吉田委員 欠席者：石神委員、村瀬委員
	事務局	加藤部長、上田課長、中桐課長補佐兼環境保全係長、 久野ごみ減量係長、後藤ごみ減量係主事
1 開会		
2 議事		
(1) 会長及び副会長の選任について 資料1を用いて、委員の互選により会長 小林委員、副会長 後藤委員に決定した。		
会長	本計画の作成方法を振り返ると、従来の推算式方法ではなく、ごみの組成を把握し、その中でどの品目をどれだけ減らせるかを推測した上で目標及びそれを実現するための施策を設定した。今年度と昨年度の結果のみを比較するとよい結果を挙げられたとは言えないかもしれないが、市民の協力を得ながら施策を実行すれば結果が伴うと信じ、この審議会で議論を行い来年度に備えたいと思う。本日は短い時間ではあるが忌憚のない意見をお願いします。 それでは、次第に従って議事を進めていく。本日は瀬戸市長より一件の諮問書をいただいている。(諮問書を読み上げる。)本日はこの諮問事項について審議したいと思う。	
(2) 報告事項について		
事務局より資料2から資料3について説明。		
事務局	本日はごみ減量推進会議議長及び副議長が出席されている。推進会議での取組み内容について、追加補足説明があったらお願いします。	
委員	何事も最初はうまくいかないものだが、推進議会による計画の推進も1年、2年と経過するにつれて少しずつよくなっており、これを継続して進めたいと思っている。 推進会議はごみ減量に興味をもった一般の市民の集まりであり、われわれだけでは意見が偏ってしまう。ごみに関心の無い人たちに対して、どうしたらごみへの関心を持ってもらえるかを日々試行錯誤している。今後も、草の根的に一般的な人たちの意識改革を行うことができるように会議を進めたい。	

委員	<p>私は自治会の役員として推進会議に参加することとなった。当初はごみへの関心は薄かったが、徐々にごみに関心を持つようになり様々な問題が見えてきた。しかし、未だ解決できていない問題も多い。</p> <p>ここ2年間、自治会で一般募集をかけて資源リサイクルセンターの見学を行っている。見学前はごみに関心の無い様子であったが、見学後にはごみに関心を持つようになり様々な話し合いがされていた。このような経験を通して、ごみに関する啓蒙活動は大事であると感じており、こういったことができるのは自治会ならではのと思う。今後もこのような活動を続けていきたいと考えている。</p>
事務局より資料4について説明。	
副会長	雑がみの収集品目が増えるのはなぜか。
事務局	雑がみのリサイクル先が、金属やプラスチックが付着した禁忌品といわれる紙類のリサイクルも可能な事業者に変更になるためである。
副会長	その事業者名は。
事務局	静岡県富士市のコアレックス信栄という業者である。このような取り組みは関東地方では既に進んでおり、この近辺では小牧市が取り組むということで伺っている。今年度の組成調査の結果より、可燃ごみの中には約6%の雑がみが混ざっていることが判明しており、本事業の周知・広報に力をいれていきたい。
副会長	5頁にある分別指導・出前授業の実施回数について、7頁に記載されている推進会議が実施した出前授業も含まれているのか。
事務局	平成27年度に效範小学校で実施したものが1回として含まれている。
副会長	平成28年度は何回実施したのか。
事務局	16頁に記載があるように、道泉小学校及び東山小学校において2回、合計5クラスで実施した。
副会長	5頁にある分別指導・出前授業の実施回数について、平成28年度は何回になるのか。
事務局	平成28年度分はまだ集計できないが、前年度と同様の数字になると思われる。
副会長	推進会議で実施した出前授業について、5頁の資料をみても推進会議で実施していることが分からない。推進会議の取組み内容がより公に出るようになると、推進会議のさらなるモチベーションにつながるのではないか。
委員	副会長のような意見は推進会議委員の中からも出てきている。我々は自ら意思を持って会議・活動をしているので、もう少し推進会議を前面に出してほしい。
事務局	今後、相談をしながらさらに推進会議を前面に出せるようにしていく。
会長	私も推進会議に出席することがあるが、全体会、分科会をそれぞれ隔月のペースで開催し、精力的に活動していることが伺える。

委員	4頁の内容について、資源物は資源化率という割合でのみ記載されているが、量については下表を確認するという事か。
事務局	当初の目標設定時に資源物量を割合で表記するようになっているので、それに併せた表記である。
委員	全体の予算に占めるごみ関係の費用はいくらほどで、その割合は近隣の自治体と比較していかほどなのか。 また、衛生委員への勉強会について、一年交代の地域もある中で、その先の住民まで広めていくことは難しいのではないかと。 推進会議で出前授業をするなど小学校でごみに関する授業が行われているようだが、ポイ捨てをする中高生をみかける。
事務局	本市の一般会計に占める清掃事業費は平成27年度3.43%である。また、愛知県が一人当たりのごみ処理費の統計をまとめているが、瀬戸市の平成26年度処理費用は5,634円/人である。近隣自治体と比較して、尾張旭市は6,621円/人、長久手市は6,080円/人、春日井市では13,740円/人であり、本市は県内でも処理費用が低い自治体であると統計的に示している。
事務局	衛生委員への勉強会は、毎年継続的に実施すれば時間を要するかもしれないが、草の根的に普及・啓発をできると考えている。 中高生のごみ意識については、推進会議で子どものうちからごみに関心をもって欲しいとの意見が出て、小学生を対象とした出前授業を実施することとなった。小学4年生の社会の授業で15時間ほどごみの単元が設けられており、その一部の時間をいただいて、ごみ行政に携わる人の話を聞いてもらっている。より上の年齢層にも教育をした方がいいという意見は、今後の参考にさせていただく。
委員	小学生のうちにはしっかりと教育をしても、大きくなるにつれてその意識が薄れてしまっているように感じられる。 また、福岡市では夜に戸別ごみ収集を行っている。この事業は高齢者が増えると推計される瀬戸市にとって参考となるのではないかと。
事務局	市民へのごみに関する普及・啓発が一番難しい問題である。自治会にもご協力いただきつつ、推進会議と草の根的に取り組んでいきたい。 また、高齢者向けのごみ収集については、類似事業でふれあい収集というものがあり対応している。今後もその時の状況に応じた施策を考えていく。
副会長	住民に対するごみの意識啓発はどの自治体においても課題となっている。田原市では、来年度からごみの有料化が始まるにあたり、職員が108校区を回って説明を行ったが、その翌月からごみ量が顕著に減ったようである。啓発媒体として広報を利用するのもいいが、直接対話することも大変ではあるが有効な手段であると思われる。 また、情報提供だが、豊川市ではごみ減量マニュアルを作成した際に、広告を掲載する企業を募りその広告費用でコストを5分の1から6分の1削減できたようである。

委員	<p>尾張旭市でごみの有料化会議が始まっている。また、尾張旭市ではプラ容器の分別が行われていることもあり、瀬戸市はごみに対する意識が低いと思われるようである。</p> <p>市民はお金に換算して説明されると反応が早く、粗大ごみ有料化の際には、粗大ごみ量が顕著に減った。</p> <p>また、推進会議では自治会や事業者との連携のなかで一つの形を作り上げたいと考えている。地道ではあるが、衛生委員の委嘱式で勉強会をさせていただくなど、「連携」の中で一つのものが出来上がっていけばと思う。</p>
会長	<p>市民がごみ減量に励んだ結果として処理費用が下がりその分の還元がされるような仕組みがあると、市民も前向きに取り組んでくれるきっかけとなるのではないかと考えている。直接対話やインターネット等手法は様々であるが、市民と行政の双方が揃ってごみ減量を進めるような仕組みづくりが大切である。</p>
副会長	<p>尾張東部衛生組合の負担金は固定額なのか。</p>
事務局	<p>基準日の人口とごみ量に基づいて決まる。</p>
副会長	<p>ごみ減量が進むほど組合費は減る。市民が頑張って減量した分が直接的ではなくとも間接的に他の経費に回るということは公表しているのか。</p>
会長	<p>そのようなことは可能な限り公表したほうがいい。</p>
副会長	<p>田原市と豊川市で一つの焼却炉を作る際に、その費用分担は当時のごみ量で按分することとなった。それに伴い各市はこれまで以上にごみ減量に取り組んでいる。</p> <p>瀬戸市でも将来的に炉の建て替え等により同様の状況が発生すると思われるが、その際に他市と良い競争が生まれるのではないかと考えている。</p>
会長	<p>4頁下のグラフについて、事業系ごみはコントロールが難しい。その中で、グラフにおいて事業系ごみの値を除くと、【家庭系1人1日当たりのごみ・資源物排出量】は基準値から見て21グラム減っており、少しずつ施策の効果が出てきているのではないかと考えている。</p> <p>また、ごみ処理費用の中で一番大きなウェイトを占める家庭系ごみについて、指標である【家庭系1人1日あたりのごみ排出量（資源物は除く）】が減っていくとよい。</p> <p>今後は、【家庭系1人1日あたりのごみ・資源物排出量】及び【家庭系1人1日あたりのごみ排出量（資源物は除く）】それぞれの数値傾向を把握していくことが大切である。併せて、この結果に一人あたりの処理費用負担額を掲載して公表すると、市民と行政で情報共有ができる体制が整うのではないかと考えている。</p>
(3) 平成29年度瀬戸市一般廃棄物処理実施計画（案）について	
事務局より資料5について説明	

副会長	<p>2 (2) 「ごみ・資源物の出し方」の配布、広報せと及び市ホームページ等による情報提供について、ごみ・資源物の出し方チラシや広報にQRコードをつけてホームページとリンクし、さらに詳しい情報を得られるような仕組みがあるとよい。</p> <p>また、昨今はfacebookやLINEなど様々な情報提供媒体がある。これらは管理が難しいと思われるが、紙媒体と電子媒体がリンクするような仕組みがあるとよい。</p>
会長	(6) 事業者、地域団体との連携による取組みの実施は難しそうであるが、連携とはどのようなものを想定しているか。
事務局	<p>事業者との連携は、粗大ごみに出そうとしている品物を出張買取してくれるリサイクルショップのリストやスーパー等における資源物店頭回収場所リストを作成し、広報等に掲載する。これにより市民、事業者、市の3者それぞれにメリットがあるような仕組みを推進会議と協同して作ることを想定している。</p> <p>地域団体との連携は、自治会や町内会との連携の中で、衛生委員委嘱式における勉強会の機会を多く設けていただくことや、リサイクルマーケットを様々な自治会で実施していただくことを想定している。また、推進会議と議論する上で他の方策も模索したい。</p>
会長	<p>ごみに関して外国人とコミュニケーションをとる事が難しいと思われるが、そういった方が集まる集会で時間をもらって説明すればごみ意識向上につながると思う。</p> <p>また、ごみの情報発信場としてごみ集積場を活用できないだろうか。その情報発信をする際には、短い言葉で簡単な情報を発信すると、意識向上に効果があると思われる。</p>
事務局	地域の要望に応じてごみ集積場に設置できるような看板を提供している。その提供する看板で応用することが可能かもしれない。
会長	(5) 食品ロスの発生抑制は具体的に何をするのか。
事務局	具体的な議論はまだ進んでいないが、宴会の時の3010運動や提供される量の調節や食べられないものがある方への対応をしている事業者をピックアップすること、フードレスキュー的に賞味期限が来ていない食材を集めて施設へ寄付する事業などを検討していく予定である。
委員	事業所・コンビニ等の周囲が汚れている所が目に着く。子どもへ環境教育を行う前に、大人が手本となり地域清掃等を行い地域美化に努めるとよい。
副会長	事業所への啓発は商工会議所や青年会議所を活用するとよい。
会長	他に意見はないか。 なければ、採決に入る。今回の実施計画案について賛成の方は挙手をお願いします。
全員挙手	
会長	全会一致ということで、この案を採択する。この結果を答申ということで市長にお返しする。
(4) その他について	
委員	本日の審議会でも市役所側の推進会議への想いをよく感じた。推進会議のメンバーにもこのことを伝えたい。

上記のとおり議事録を作成し、会長は記名・押印する。

平成 年 月 日

会長 _____ 印